■住民が主体となるまちづくり

ひろだい探偵団

～あなたの"なぜ？"を科学で解明します～

(((18)))

目線を変えて行動を

探究心旺盛な小中高生の皆さんに向けて、弘前大学の先生たちのユニークな研究を紹介するこの連載。今回は「住民が主体となるまちづくり」についての研究です。

土井良浩准教授

皆さんは、自分の住む地域が「こんな風になったらいいのになあ」と思ったり、「地域をもっと元気にしたい！」と思ったりしたことはありませんか？

そんな人たちの思いを形にするための方法や仕組みを、本学の土井良浩先生は研究しています。

「まちづくり」ってどんなイメージ？

皆さんにとって、「地域づくり」や「まちづくり」は、どんなイメージですか？ 行政や専門家の人たちが「やってくれるもの」と思われがちですが、地域の人たちの集いの場をつくり、ふだん地域について感じていることを共有し、集まった人たちで「やりたいこと・できること」のアイデアを出し合い、それを磨き上げて自分たちで実行することにより、私たち自身がまちづくりの主役になることができるのです。

土井先生は、実際の地域づくりプロジェクトの運営に携わりながら、地域の人々が主体的に地域づくりをしやすくするためには、どのようにサポートすれば良いのかを研究しています。

まちづくり研究の最大の特色は、研究者が実在の地域でまちづくりに関わりながら研究を進めることができる点にあります。

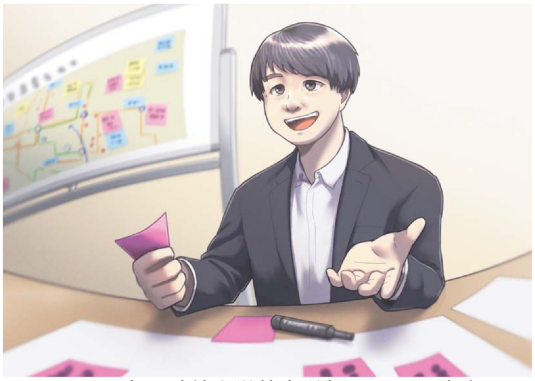
小比内地区の若い世代の思いを形にするプロジェクト

例えば、弘前市の小比内地区では、若い世代の人たちが弘前市役所、地元町会の役員や土井先生のサポートを得ながら、ねぷた運行や餅つき大会など、住民主体のイベントを実現させました。「自分の住む地域でこんなことをやってみたい！」という思いを形にするプロジェクトをやり遂げたことによって、若い世代の自信は深まり、今では、定期的に集まって、自分たちだけで、楽しみながらまちづくりを企画・運営しています。

こうしたプロジェクトや研究の成果を多くの人々と分かち合うため「まちづくり新聞」を作成し、小比内地区の各戸に配布しています。それを読んだ人たちが「おもしろそう」と感じて参加してくれたら、まちづくりはさらに盛り上がるのです。

プレイヤーとなるのはあなたです！

大人も子どもも、住民一人ひとりが地域づくり・まちづくりのプレイヤーになることができます。ですが、まちづくりには、正解はありません。みなさんが起こすそのアクションが、よりよい地域へと導く第一歩となるでしょう。



イラスト・弘前大学教育学部　ひつじ玲汰

最後に、土井先生からのメッセージ

まずは「自分の住むまち」を普段と違う目で眺めてみてください。それぞれのまちには「そこにしかないもの」が存在するはずです。自分が住み慣れているまちの外に出ると、自分のまちの特徴をつかむことができるので、可能な限りいろいろな地域に出向いてみましょう。

自分の暮らすまちを歩きながら、自分にとって魅力的な場所、大切な場所はどこか、あるいは変えてみたい部分はないか、考えてみてください。

ワークショップの様子

皆さんには、現在を変える力があります！

第18回の先生

土井良浩准教授

【大学院地域社会研究科】

ひろだい探偵団では引き続き、本学の先生たちの面白い研究をご紹介していきますのでお楽しみに。また、これまでの記事のバックナンバーもぜひご覧ください。記載の二次元コードからどうぞ。次回の掲載は3月20日、「まぶたが下がる？眼瞼下垂症（仮）」の「なして？」をお伝えします。お楽しみに。

（担当：弘前大学研究・イノベーション推進機構、ライター：人文社会科学部社会経営課程地域行動コース3年　木村愛華）

※この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。
転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。　令和５年２月６日 陸奥新報掲載